

2020年(令和2年)9月16日(水)第7回例会(通算2881回)

国際ロータリー第2580地区



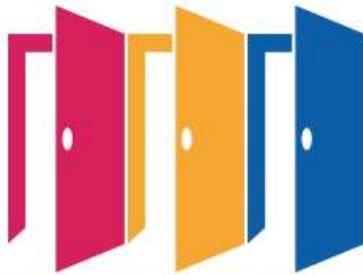
# 石垣ロータリークラブ週報

会長：森田 安高 副会長：黒島 剛 幹事：東上里 広和 副幹事：吉田 貴紀

今月のロータリーレート 1\$¥106

創立年月日：1962年3月12日

今年度創立60周年



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度RIテーマ

RI会長：ホルガー・クナーク

地区ガバナー：野生司 義光氏

2020-21年度 ◆クラブテーマ◆ **【心機一転】**  
クラブキャッチコピー：島のリズムで伝える平和と奉仕のくるくる(心)

☆地区年次目標☆

「会員増強」

「公共イメージの向上」

「ロータリーデーの開催」



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか



シリーズ：森の名人・戸眞伊さんと森の木

石垣方言：ヤマヌバンキ 和名：アカハダノキ

石垣島、西表島以南にしか自生していないマイナーな木。大きく育つこともなく、昔の人からすると材木にも適さず、薪としても燃えないので何にも使えない木とされてきました。ずっと切られることもなく、山火事が起きても燃えることもなく山に残っていることから、“山の番木”とも呼ばれていました。戸眞伊さんからすると木目がキレイで色味も良く、家具材として小物作りには最適なので大好きな木のひとつだそうです。



## 9月9日(水)例会報告

《司会進行：新垣 精二》

ロータリーソング：君が代 四つのテスト

ソングリーダー：大浜 勇人

ゲスト：沖縄振興開発金融公庫八重山支店

支店長 前村 司 様 業務課長 外間 守起 様

メイクアップ：我那覇 宗善

会員総数	47名
出席義務会員	46名
出席数	33名
欠席数	13名
出席率	71.73%
通算出席率(8月は1回)	50.00%

★9月のプログラム 9/16(水)ゲスト卓話：戸眞伊 擴 様 9/23(水)休会 9/30(水)観月会(夜間例会)

例会日 水曜日 12:30～13:30

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311

事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917

URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

## ◆ 会長挨拶: 森田 安高 ◆



皆さんこんにちは。ようやく face to face で皆さんと顔合わせの例会が出来ました。今月も厳しいかと思いましたが、橋本委員長からもご説明があったように、石垣の場合は出所が明白になっているということで例会を開催させていただきました。先月は初めての Web 例会でした。Web での理事会は幾度か橋本直前会長の時にもありましたけれども、例会は初めて挑戦してみました。これから先、どういうふうになるか分かりませんが、なるべくそういった形も取りながらこれからの対策を進めていきたいと思っております。今日、卓話をいただきます。沖縄振興開発金融公庫前村支店長、外間課長も一緒にご出席いただいております。今日の卓話、よろしくお願いたします。今日の理事会で 60 周年の記念事業の予算(案)を初めて出させて頂きました。詳しい内容は Slack のほうに上げます。日程と場所について皆さんに説明いたします。日程は 2021/4/30(金)場所は ANA インターコンチを予定しています。その経緯については、私が会長に就任する前に、先輩や後輩、黒島会長エレクトも含めていろんな話しました。そしていろんな地域の周年事業に参加しました。石垣でやる時は、もうちょっと思考を変えてやろうよと、50 周年を超えて、60 周年は人間で言えば還暦だということで、参加される方が良かったという印象を残すような周年事業をやろうという事で、であれば森田君よろしくという話しになって会長を受けた経緯があります。規模は例年と同じように 200 名ぐらいで考えています。ANA で式典は中で祝賀会を中庭の方で、イベントも含めて花火も上げようという話しも出てきて予算の中にも組み込んでいます。前日には、ウエルカムパーティーを考えています。私は船会社ですから船はありますのでサンセットクルージングと船上でパーティーをやろうということで計画しています。それは予算書には落とし込んでいません。参加される方に予算を決定して今年中に発表いたします。会員の皆さんの家族の方、友好クラブのパートナーも含めて石垣島のサンセットを見て頂こうと思っております。悪天候の場合は代替案を考えて行きたいと思っております。ウエルカムパーティーにはアートホテル石垣島、山下さんのところで食事や飲み物、サービスも兼ねてお願しいパーティーをしたいと思っております。今日、出した予算書は訂正がありますので、訂正しましたら Slack のほうに載せますので会員の皆さんも確認して頂きたいと思っております。

## ◆ 幹事報告: 東上 里和 広 ◆

コロナ禍の中で例会場での開催は久しぶりです。幹事報告いたします。ロータリー文庫運営委員会より、新年度に当たり各クラブへの文書配信のお願いが届いております。ロータリー文庫では、ロータリーに関する資料の収集、保管と共に利用者の便宜を図るため資料のデジタル化を進めて参りました。徐々にデータベース上の資料の整理も進み、7 月よりユーザー名とパスワードを使用して、WEB サイトを通じた資料の公開を始めていますが、今後も利用しやすいようにホームページの資料検索方法の改良を進めているということです。お願として、当クラブにも HP がありましてその方にもロータリー文庫のリンクを貼り付けて欲しいというお願ですので、HP を運営している管理会社の方と打ち合わせをしてリンク貼り付けを進めていきたいと思っておりますのでご了承ください。引き続きコロナ対策でクラブ例会の休会や各事務所の在宅勤務、営業時間短縮等の連絡が届いております。予定のある方は事前に事務局にお問い合わせの上、適切な行動をお願いいたします。RLI パートⅡとパートⅢの受講の受付案内が届いております。登録期限は 10/9 で受講日が 10/18 となっており、当クラブの吉田さんは既にパートⅢに申し込んでいます。ぜひ皆さんもお誘い合わせの上ご参加頂ければと思います。沖縄分区より 2019-20 年度沖縄分区収支決算総括の報告があり、コロナウイルス感染拡大を受けて支出が減った分の、分区決算剰余金と青少年交換プログラム補助費剰余金を各クラブに返金し、返金に対するの対応は各クラブへ委ねるとのことでした。当クラブへの返金額 126,506 円は一般会計に入金することが理事会で承認可決されました。8/27 に入金されました。事後報告となりました事をご了承頂きたいと思っております。最後に備品購入の費用について、今、例会で使われている歌詞フラッグと旗や日章旗が経年劣化で状態が悪くないということと 60 周年事業も控えているということで全て刷新した備品を購入したいと思っております。購入価格は 100,840 円となり、理事会において承認可決されたことをご報告させていただきます。

## ◆ 会員からの報告広 ◆

危機管理委員会: 橋本 孝来 委員長

お盆が終わり幸い家庭からの感染というのはございません。発生例というのはほぼ観光関連のところ、つまり観光客の持ち込みに限定されます。クラブメットもほぼクラスターは収束に向かっています。今日の午前中にも一例発生しましたがこれも観光関連のところ、石垣の場合は、散発的に発生してもそれを拡散させないように追跡出来ていますので、その意味では経済活動も少しずつ広めて行かないといけないうんじやないかなというふうを考えています。Slack に感染予防に関するポリシーを二度ほど書かせてもらって、これまでは郡外に出た場合に 7 日間例会に出ないという書き方をしていましたが、少しそれを緩めさせていた

だきたいと思ひまして、理事会に提案しましたところ承認されました。具体的に言うと、郡外に出た場合にでも不特定多数と接する、あるいはそういう人と二次的に接する、あるいはそういう場所に行かなくちゃいけなかった場合には、従来通り 7 日間は例会出席を控えて下さい。ただし、そうじゃない出張の場合は、必ずしも 7 日間のルールを全部に当てはめることは合理的ではない状況になっているので、そこは緩めさせていただきます。それから例えば、ご家族の方が遠方から戻って来る前に一週間を自粛した上で石垣に戻って来たという事がはっきりしている場合には OK というふうな内容に書き替えますので、Slack の方でご確認頂ければと思います。皆さんに注意頂きたいのは、一番多いパターンはマスクの表面を触る、あるいは手袋の表面を触った手で自分の着用や顔を触ったりすることが結構多いような気がしますのでどうかご注意ください。

### ◆ゲスト卓話：前村 司 氏◆

沖縄振興開発金融公庫八重山支店  
支店長



### ◆テーマ◆

With コロナ時代の事業継続を考える



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介に預かりました沖縄振興開発金融公庫 八重山支店長の前村でございます。本日は、石垣ロータリークラブ様の定例会にお招きいただき、またこのようにお話をさせていただく場を頂戴しまして誠にありがとうございます。少し、自己紹介させていただきますと、私は 6 月 8 日付けで八重山支店に着任しました。八重山支店での勤務は 27 年振りとなります。当時は民放テレビもない時代でしたが、今はネット環境も整い、大型商業施設の整備や海外・本土直行便の運行など生活が大変便利になったと感じています。当時は 20 代前半で遊び盛りでしたので、夜は美崎町、週末はダイビングや地元のテニスサークルや草野球など、楽しかった記憶しかありません。今回は支店長という立場で戻ってまいりましたし、コロナという緊急事態ですので、しっかりと地域のお役に立てるよう頑張りたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。1. 沖縄公庫のご紹介。それでは、本題にはいたいとおもいます。最初に、少しだけ沖縄公庫のご紹介をさせていただきます。お手許にお配りしました「沖縄公庫REPORT 2020」という冊子の 4 ページをお開きください。沖縄公庫のプロフィールになります。沖縄公庫は、昭和 47 年 5 月 15 日に本土復帰と同時に、当時あった琉球開発金融公社、大衆金融公庫、琉球政府の特別会計などを集約・承継して設立されました。職員は 215 人で、そのうち八重山支店は 9 名で運営しています。令和 2 年 3 月末の出・融資残高は 8,716 億円で、県内金融機関全体の出融資シェアでは約 17% となっています。次に業務内容について 5 ページをご

覧ください。主に融資と出資業務を行っております。特徴としましては下の図にありますように、本土では日本政策金融公庫や住宅金融支援機構などのように業種や事業規模などによって窓口となる機関が分かれています。沖縄は本土との格差や第三次産業中心の産業構造、金融の資金力が弱いといった特殊事情を抱えていましたので、経済の振興や県民生活の向上などの課題解決のためにどうしたらいいかということ、貸付期間や金利などの融資の制度に反映させて、ひとつの機関で大企業から零細事業者、農林、医療、教育資金などの小口資金まで全てのサービスをワンストップで提供できるように作られた沖縄県のみを対象とした総合公庫となっています。次に 10 ページをご覧ください。沖縄公庫は国や県の沖縄振興計画などの政策を金融面から支えることとされています。具体的には、次の 11 ページのとおり、例えば、大規模な軍用地跡地開発が必要ということであれば駐留軍用地跡地開発貸付という融資制度をつくり、ホテルを増やしたいという政策であれば観光リゾート産業貸付の融資条件を緩和する、地方創生・離島振興に力をいれようということになれば離島・北部過疎地域振興貸付の貸付条件を有利にして借りやすくするといったように、政策を効果的かつ具体的に実現させるために独自の融資制度を創ったり、改良したりします。本土公庫と横並びの融資制度もありますが、融資制度の 6 割は沖縄独自の政策金融をおこなっています。次に公庫の出・融資実績につきまして、12 ページをご覧ください。上段の表は、内閣府沖縄担当部局の予算額と沖縄公庫の出・融資実績を昭和 47 年から令和元年まで折れ線グラフで表示しています。ピンクの公庫の出・融資実績をみていただきますと、景気や経済環境、事業者の投資マインドによって増減がありますが、平成 6 年の 2 千 8 百 16 億円がピークとなっています。当時は全国的なバブルのなか沖縄県でも空港やホテル、商業施設、住宅等の建設が旺盛だったことから、年間 2,000 億円を超える融資実績が続きました。その後は、バブル崩壊や平成 13 年 9 月のアメリカ同時多発テロ、平成 20 年 9 月リーマンショックのほか、住宅の普及による公庫住宅資金の予算縮小もあり、近年の融資実績は 1 千百億円から 1 千 5 百億円前後で推移し、融資累計額は 6 兆 6 千 5 百億円となっています。続いて、13 ページをご覧ください。上段の棒グラフは、業種ごとの融資残高を掲載しています。残高が多いものでは、製造業や運輸業、電気・ガス事業など、大規模な設備投資を必要とする業種を中心に沖縄公庫の融資残高が多いことを示していますが、これは投資回収に長期を要する設備資金については公庫の設備資金が利用され、通常の事業活動に必要ないわゆる短コロと呼ばれる運転資金は民間金融機関が担っていること

を示しています。また、下段の折れ線グラフは県内金融機関の融資残高の前年比伸び率を表しており、公庫の運転資金を示すピンクの折れ線グラフが上に跳ね上がっている時期というのは、バブル崩壊や消費税増税、リーマンショック東日本大震災といった景気後退局面に大きく伸びていることを示しております。沖縄公庫のセーフティネット機能が生かされていることがお分かりいただけるとおもいます。今回のコロナ特別貸付につきましては、次の14ページをご覧ください。公庫のセーフティネット特別相談窓口は台風災害や首里城火災なども開設されています。コロナ特貸は、中段の表に掲載しておりますように、今年7月末現在で1千9百57億円の実績で、過去のリーマンショックや東日本大震災時をはるかに超える額となっています。あともう少しだけ紹介させていただきます。20ページをご覧ください。県の重点施策のひとつである離島の振興について、「沖縄離島振興貸付」により支援させていただいています。融資実績は、平成22年から10年間で1,137件、343億円、約800名の雇用効果となっています。下の融資事例2社は、今回は宮古の事業者をご紹介させていただいておりますが、来年はまた八重山支店のお取引先をご紹介させていただきたいと考えています。最後に、46ページをご覧ください。公庫は人材育成にも力を入れております。特に、離島における教育費負担を軽減する観点から教育資金の金利低減制度を設け、令和2年度からはご返済期間を15年から18年に延長して更なる負担軽減を図っています。ご利用実績は、八重山支店で毎年1億円前後をご利用頂いております。教育資金融資制度につきましては、八重山高校、八重山商工高校、八重山農林高校をご訪問し、進路指導の先生方に教育資金のご案内をさせていただいております。またPTAなどに対しましてもご要望があれば説明会を開催させていただいております。その他の創業資金や農林・医療資金などの制度紹介は割愛させていただきます。お時間があるときにご確認いただければと思います。2. with コロナ時代の事業継続を考える。続きまして、今回の主題であります「with コロナ時代の事業継続を考える」に移りたいと思います。今日いらっしゃる経営者の皆様には「釈迦に説法」かと存じますが、金融機関の立場から日頃感じていること、考えていることを少しお話させて頂ければと思います。資料は殆どありませんのでお耳をお貸しください。最初の「(1)会社は赤字でもつぶれない」について、実は世の中の会社の7割は赤字会社といわれていることをご存じでしょうか。赤字経営というのは、損益計算書で売上高から費用を引いた最終利益がマイナスになる状態です。事業を長期的に継続していくためにはもちろん黒字を出していく必要がありますが、数年連続で赤

字という会社もあることは確かです。赤字の会社でも事業が継続できるのは、資金繰りができているかが大きなポイントになります。損益計算上は赤字でも、役員報酬を多額に出していきざしというとき役員から運転資金の貸付ができるとか、設備投資にかかる減価償却費が多額に費用として計上されているけれども現預金として内部留保されているとか、日頃から金融機関との取引が良好で運転資金が調達できるとか、取引先に支払いを猶予してもらえる、などがこれにあたります。つまりは会社が継続するうえで一番大切なのは資金繰りです。今回のコロナでは、休業要請や外出自粛などにより多くの会社が売上が減少して赤字になりました。役員報酬や減価償却を含めても資金繰りが厳しくなり、公庫や銀行のコロナ貸付をご利用頂いた方も多々あります。石垣市や商工会も一生懸命、持続化給付金や家賃支援給付金、雇用調整助成金を支給して資金繰り支援をおこなっていますが、対処療法でしかありませんし、財源にも限界があります。そこで次に企業が考えるのが、費用の削減です。あたりまえのことばかりで申し訳ありませんが、削減できる費用があるのとないのでは、事業継続の耐久性に大きな差がでます。ご承知のとおり費用には、売上に連動して増減する変動費と、売上ににかかわらず発生する固定費があります。変動費用の代表的なものは製造業などの原材料費です。売上が減少すれば変動費も減少しますのである程度の利益は確保することができます。しかし、固定費は売上があってもなくても一定額が発生し、減ってはくれません。代表的なものは人件費や地代家賃、リース料になります。二つ目の「(2)資金繰りを改善するには」について、この固定費の削減についてお話させていただきます。本県のリーディング産業である観光業は、特に固定費の割合が高い業種だとも思います。観光業はおもてなしが重要ですので、リゾートホテルやラグジュアリーホテルなど大規模になるほど従業員が必要になります。昨年はさまざまな分野で人手不足が大きな社会問題でした。人件費も高騰しましたし、賃金をあげてもアルバイトすら確保できず、コンビニの24時間営業を変えるきっかけにもなりました。外国人労働者の活用や「一億総活躍」という政府目標も出されましたが、コロナで雇用環境は一変しました。とはいえ、企業は社会的責任もありますので、一旦雇用した従業員は簡単に減らせません。経営者のみなさんは雇用維持に大変苦慮されていることと思います。そこで雇用を維持しつつ固定費を削減する取り組みが重要になってきます。次第の次に添付しました資料1をご覧ください。先週土曜日の日経新聞記事にさまざまな企業のコスト削減に向けた取り組みが紹介されていたのでご覧になった方も多々あります。人件費については、残業代や一時金の

削減、新規採用人数を縮小した会社が多いでしょうか。地代家賃は、営業店舗の再編による削減を図ることとしています。逆に収益性向上のために販売拠点の再編や営業体制の見直しなどの先行投資をして長期的なコスト削減につなげる企業もあります。このほか記事には載っていませんが、ホテルや病院など不動産を必要とする会社は保有する不動産を売却し、セールアンドリースバック方式により、買い主に賃料を支払いながら同じ場所で営業を継続する方法が取られるケースがあります。これは不動産取得に係る利払いや固定資産税、借入金の返済負担と賃借料を比較してどちらが負担軽減になるかを比較して判断することになります。リースバック方式は航空機でもよく使われています。製造業では、工場設備の稼働率低下をうけて、リース会社が遊休化した設備について、貸したい企業と設備を利用したい企業のマッチングを行い、機械のシェアリングを行うことでリース料の負担軽減と手数料収入を得る方法などが始まっているようです。今日、保険会社の方がいらっしゃるとお話しにくいですが、経営者の生命保険はその保険料が会社の費用として計上できるので、節税を目的として加入されている経営者も多いと思いますが、コロナで赤字になった今解約して、利益計上と赤字を相殺して節税効果を出し、喫緊の手元資金を確保する企業も増えているようです。このように多くの企業が生き残りをかけて、経営の効率化にとりくんでいます。しかしながら、国としてはされに踏み込んだ改革が必要との認識でいます。先日、管官房長官は、中小企業の統合・再編を促進すると表明しました。アベノミクスでは円安や株価上昇の効果は出ましたが、経済成長率2%の目標は殆ど効果が出ていません。それは企業の生産性が諸外国より低いことが要因とも言われています。そのため合併などで企業規模を大きくすれば、経営の効率化や生産性の向上、研究開発費や投資の拡大が図りやすくなると考えているようです。また、コロナ下での企業の自然淘汰はやむなしとの発言もあると聞いています。経営者のみなさんは、本当に歯を食いしばって耐えられているとおもいますが、エコノミストの多くがコロナの影響は2024年まで続くと分析していることから、こうした経営の効率化がますます重要になってくると思います。この間のホテル稼働率、入域観光客予測を踏まえても、今後観光収入は半減した状態が続くことが想定されますし、売上が半減しても営業利益が出せる体制づくりをすすめる必要があります。次に、「(3)仕事のやり方が変わる」についてですが、これまでお話しした経営の効率化は、資金繰りの改善は図られますが、従来どおりの仕事のやり方ではもはや取引先や顧客から支持されなくなる可能性があります。最近の新聞でもよく目にされるとおり、テレワークや

ワーケーション、オンライン商談会が県内でもどんどん広がっていますし、沖縄公庫も多くの会議や内部研修をリモートで行っていますが、いままでできないだろうと言われていたほど支障は感じませんでした。ただ個人的に、営業職については、飛び込み営業ができなくなるとどうするのだろうと疑問でしたが、日経ビジネスに面白い記事がありました。日産プリンスのある営業部員は、20年近く社内で営業成績トップの成績でコロナ禍でも月間10台以上の新車販売を維持しているそうです。当然ながらコロナ前はほぼ100%対面営業でしたが、コロナで対面営業が制限されて、ますます営業力を磨いたそうです。彼はまず駐車場に行き、年式やタイヤのすり減り具合から買い換え時期を推定。さらに家の大きさや自転車の数、庭にあるおもちゃやアウトドアグッズ、ゴルフ練習器具から家族構成や子供の年齢、どういうクルマが欲しいかをプロファイリング。そうすると相手は電話やパソコン画面越しでも自分が抱えるカーライフの悩みなどをなぜか知っている営業マンの話の思わず聞いてしまう、という内容でした。これから導かれるのは、テレワークには一定の制約がある一方、社員の自立や自発性、自己管理力の向上を引き出すきっかけにもなるということでした。ですが、やはり一番難しいのは、人を育てる難しさではないでしょうか。今は大学や専門学校もリモートで授業を行い、入学しても学校にいけない学生も増えて、コンパもサークル活動もアルバイトもできずに、短い学生生活を終えてしまうのは本当にかわいそうだと思います。それ以上に企業採用では、採用面接も新人研修もリモートになり、営業ノウハウや顧客とのコミュニケーションの取り方もどうやって教えればいいのか、私も悩んでいるところです。観光業については、先日、八重山ビズターズビューロー主宰の講演会で山田桂一郎氏が提唱されたように、マイクロツーリズムと呼ばれる地元や近場の観光地やホテルが選ばれることが、修学旅行を中心に増えているようです。特に八重山は世界自然遺産登録や星空保護区、地域ごとの豊年祭、マラソン大会、カジキ釣り大会などの伝統や文化、イベントはとても大きな観光資源です。去年はオーバーツーリズムが問題視されていましたので、これを機会に、安全安心を重視し、伝統や文化に触れながら、少人数で、ゆったりとした観光を進めていくことで、おのずと沖縄県が目指す自然環境を守りながら長期滞在型の観光産業が形成されていくのではないかと思います。ほかにも、非接触を意識して、ウーバーイーツなどデリバリーや、エイチ・アイ・エスの「変なホテル」のようなロボットが受付やルームサービスを対応するホテルが支持を得るのかもしれない。このロボット化・省人化は、人手不足の解決策としても広がっていたことから、その流れは

一層進んでいくものと思います。沖縄公庫としまして、事業者のみなさまのこういった経営の効率化や改善に向けた取り組みに対して、アドバイスやご融資でお手伝いさせていただきたいと考えています。

(4)世の中はもっと変わるここからは余談になりますが、資料2に気になった記事を紹介させていただきます。・危険な場所での建設機械の遠隔操作・VRや複合現実(MR)など、ゴーグル型端末で、旅行やスポーツなどの仮想体験や、製造業など技術の承継にも使用・アメリカのテスラ社をはじめとする電気自動車や自動

運転技術は急速に進歩・東京のスタートアップ企業が「空飛ぶクルマ」を開発。これから世の中の生活スタイルも大きく変わっていくと思いますし、あと10年もすると八重山の空に空飛ぶクルマが飛んでいるかもしれません。公庫も日々情報をキャッチし、お客様との対話を通じて、事業の発展、地域の発展のお手伝いに尽力していく所存です。最後になりますが、「沖縄大交易会」をご紹介させていただいて、私のお話を終了させていただきます。ご静聴ありがとうございました。

～例会風景～



🎀 バナーのプレゼント

🌸 前村司支店長、外間守起営業課長、ご来会ありがとうございました。

本日のニコニコ

- ☆森田安高氏:前村支店長、卓話ありがとうございました。
- ☆黒島 剛氏:前村支店長、今日の卓話勉強になりました。ありがとうございました。
- ☆上勢頭保氏:本日おかげさまで71歳の誕生日を迎える事ができました事に感謝!
- ☆宮良榮子氏:森田会長、東上里幹事、今年度よろしく願いいたします。感謝!
- ☆小林昌道氏:お盆も終わり平常にもどってます。
- ☆大田次男氏:前村支店長さま、本日はありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。
- ☆今西敦之氏:家内誕生月 内祝
- ☆吉田貴紀氏:前村支店長様、外間課長様、卓話ありがとうございました。
- ☆山下 暢氏:前村支店長、卓話ありがとうございました。
- ☆新垣精二氏:八重山高校野球部 2020 沖縄県夏期高校野球大会優勝おめでとうございました。応援もありありがとうございました。OBです。

◆BOX¥10,000 (累計¥51,000)◆コイン¥0 (累計¥11,648)合計 ¥64,648

南波正幸氏 橋本孝来氏 今西敦之氏 東上里和広氏 ◆60周年記念基金 ¥4,000 累計¥13,000



米盛 博和氏 7日(月) 上勢頭 保氏 9日(水) 松原 栄松氏 15日(火)  
橋本 孝来氏 16日(水) 松尾 和彦氏 20日(日) 黒島 剛氏 24日(木)

